

実践報告

地区組織活動の学習について

～地域の町内会の協力を得た取り組み～

作並亜紀子* 塚本陽子 播本雅津子

名寄市立大学保健福祉学部看護学科

1. はじめに

保健師教育において中核となる科目は、公衆衛生看護学である。公衆衛生看護は、看護の立場から公衆衛生の目的を達成するために実践される、個人・家族、集団、組織を対象にした意図的・組織的な活動であり、公衆衛生看護の実践には、社会的な背景もふまえた地域の健康ニーズの的確な把握、地域住民との協働や地域住民の主体的な問題解決を支援することが不可欠となる¹⁾。

本学の保健師教育で取り組む地区組織活動の学習は、学生が1年を通じて名寄市内の町内会活動に参加することにより、地域の特徴や人々の生活の様子を理解する一助となっている。

そこで、本稿では、地区組織活動の学習について、地域の町内会の協力を得た本学の教育の工夫を報告する。

2. 名寄市立大学における地区組織活動の教育の工夫

本学の保健師教育において、町内会連合会および単位町内会の協力を得た地区組織活動の学習は、2012(平成24)年度から始まった。当初は4年生を対象として、2週間の協力を得ていた。その後、カリキュラム改正で授業時間数が増えたことにより、2014(平成26)年度から保健師課程科目を選択している3年生を対象に1年を通じて行うようになった。2017(平成29)年度現在、町内会連合会および5つの単位町内会の協力を得ている。この学習を通して、学生が1年間同じ単位町内会の方々と関わることで、保健師の地区担当制や保健師活動を通じた施策化の提言のイメージを高めることにつなげている。地区担当制とは、おおむね1人の保健師が小学校区あるいは中学校区単位のエリアを担当地区として、その担当地区の健康レベルの向上を目的に、あらゆる年代および健康レベルの、すべての住民を対象とした保健活動を展開するものである²⁾。

本学で1年を通じた地区組織活動の学習ができる理由は、町内会連合会および単位町内会の方々のご理解とご協力があることと、名寄市立大学の環境があげられる。名寄市立大学は、名寄市の中心市街地の北部に所在する。ご協力いただく単位町内会は中心市街地で、特に大学に近い町内会をお願いしている。そのため、町内会活動に参加する際、学生は、徒歩または自転車で移動をしている。また、本学の学生は90%余が名寄市内の下宿またはアパートで暮らしている。学生は普段から地域の人々と同じ地域資源を使っていることが多いため、より地域での生活をイメージすることができていると考えられる。

本学の保健師教育における地区組織活動に関する授業の概要は、表1に示した通りである。大学の地区組織活動に関わる講義の目標は、「健康な地域づくりを目指した保健活動計画の計画・実施・評価のプロセスについて理解する」、「公衆衛生看護活動における連携・調整機能を理解する」、「地域住民の主体性を尊重し、人々の協働による問題解決を支援するための保健師の基本姿勢を理解する」の3つがあげられる。授業は初めに、大学内において、地区組織活動に関する講義と町内会活動に向けたオリエンテーションを行う。オリエンテーションでは、町内会活動の際に参加者とコミュニケーションが広がるような自己紹介の方法を指導している。また、町内会活動に参加する上での心得として、学生の学習に快く承諾していただいている市民

*責任著者 E-mail:akikos@nayoro.ac.jp

の方々へ感謝の気持ちを持って学習に励むこと・自己紹介を行うこと・勉強になった点を述べること・積極的にコミュニケーションを図ることなどを伝えている。大学内での教育の後、学生は実践として、町内会連合会の会長との懇談会、単位町内会の会長・役員との懇談会、単位町内会活動に参加する。教員は、学生がこの活動を通して、町内会連合会・単位町内会の組織の仕組みや会長・役員の役割、地域の人口構成や特徴などを学習できるように町内会との調整や教育の工夫をしている。また、学生には単位町内会の活動の前後などを利用して、単位町内会の地域内での地区踏査を心がけるように指導している。地区踏査とは、地域に出向き、直接地域を観察したり話を聞いたりすることを通して、地域の生活状況の実感的情報を得ること³⁾である。教員は、学生の町内会活動での学びを記載したレポートや参加状況をもとに、町内会活動と大学内で教育した理論や内容がつながり、それを理解できるように指導している。そして、授業の後半では、学生同士で学びを共有し合い、地区組織活動の理解を深めることを目的として、大学内でカンファレンスを2回実施している。第1回地区組織活動カンファレンスでは、同じ単位町内会グループごとにカンファレンスを実施し、単位町内会の行事の意味や町内会活動を通して学んだことを共有できるようにしている。第2回地区組織活動カンファレンスでは、活動した単位町内会が違うグループごとにカンファレンスを実施し、それぞれの単位町内会の地域の特徴や活動の様子、住民の方々の価値観などを共有できるようにしている。その後、教員は学生が学習したことを保健師活動に活かしていけるように、そして学生自身も視野を広げて考えていけるように教えている。

表1 地区組織活動に関する授業の概要

| 授業の流れ | 内容 |
|----------------------------------|--|
| 大学内での講義 (全体) | 地区組織活動に関する講義 町内会活動に向けたオリエンテーション |
| 事前学習レポート (全体) | 町内会組織の成り立ち・仕組み・役割などについて学習したことをレポートに記載する。 |
| 町内会連合会懇談会 (全体) | 町内会連合会の会長と市役所の担当者より町内会連合会の組織と活動について説明を受ける。 |
| 単位町内会懇談会 (各単位町内会グループ) | 単位町内会の会長・役員より単位町内会の特徴や活動について説明を受ける。 |
| 地区踏査 (各単位町内会グループ) | 積雪寒冷地での季節ごとの生活を考えるため、単位町内会の活動の前後などを利用し、年間を通じた地区踏査を心がける。 |
| 単位町内会活動への参加 (各単位町内会グループ) | 対象の単位町内会が開催する夏季と冬季の定例行事に参加する。 ①単位町内会の会長・役員・会員と交流し、地域の人々の暮らしに触れる。 ②行事の企画・運営に積極的に参加する。 |
| 第1回地区組織活動カンファレンス (各単位町内会グループ) | 大学内において、単位町内会ごとに、地区組織活動で参加した行事や実施した内容についての学びを共有する。 |
| 第2回地区組織活動カンファレンス (全体) | 大学内において、単位町内会の地区組織活動を通して学んだ地域の特徴や住民の様子などを共有する。 |

町内会活動に関して、町内会連合会・単位町内会・学生との連絡調整は、すべて教員が行っている。町内会連合会の会長との連絡調整の内容には、協力の得られる単位町内会の確認と懇談会の日程・内容の

確認がある。懇談会は、学生が地域に出向いて説明を受けることもあるが、町内会連合会の会長が大学に来て説明を受けることもある。また、名寄市では町内会連合会の事務局を市役所企画課企画調整係が担っており、懇談会の資料の準備や懇談会への出席という形でご協力いただいている。

単位町内会の会長・役員との連絡調整の内容には、懇談会の日程・内容の確認と学生が参加できる単位町内会の活動の日程・町内会行事における学生の役割の確認がある。単位町内会の特徴や行事の目的などは、懇談会や行事の後に時間を設けてもらい説明を受ける。学生が参加する町内会活動は、地域での生活が季節の変化とともに営むものであることを踏まえ、夏季と冬季の活動を依頼している。各単位町内会で、学生が町内会活動に参加する上で、ご配慮いただいていることは、①町内会の会員の了解を得られる町内会行事の選択、②町内会の会員へ学生の参加を周知（単位町内会によって、町内会会員への案内文などに掲載、町内会行事の時に参加者全体へ直接伝えるなど）がある。また、町内会行事は、町内会の会員の方々の町内会費や参加費で開催・参加しており、その行事に学生が参加するため、学生も教員も参加費を自己負担することを基本としている。しかし、単位町内会によっては学生の負担がかからないように、学生に招待券を渡してくれるところもあり、感謝している。単位町内会の行事に参加している方々は、町内会の行事に参加する学生は3年生であるため毎年度変わるにもかかわらず、前年度に来ていた学生のことや大学の歴史や行事なども話題にして、学生とコミュニケーションをとっている様子が見られる。地域の方々が、温かく学生を受け入れており、学生が参加する町内会行事の種類は各単位町内会で経年的に増えている。

学生は、他の講義や試験期間と重なっている時はやむを得ず参加できないことはあるが、様々な町内会行事に積極的に参加している。その際は、教員も極力引率し、町内会の方々と年間を通して関わっている。そのことで、町内会の方々と交流ができ、連絡調整の時の電話だけでなく、町内会行事の案内を手紙で大学に届けに来る町内会や行事の時に伝えてくれる町内会もあり、町内会の会長・役員と教員の関わりが、町内会と大学がつながる機会にもなると考える。

学生が参加した町内会活動は、表2に示した通りである。学生が町内会の会員と多く交流ができるように、町内会行事に合わせて準備・片付けや当日の進行の補助・余興などを行っている。1年を通じて町内会活動に参加することにより、学生は住民の方々と積極的に関わり、参加する回数が重なるごとに交流が進むため、継続的に関わることにより人間関係が構築されていくことを体験的に学ぶことができている。また、町内会行事の目的や夏季と冬季の行事の特徴を学ぶこともできている。

表2 学生が参加した単位町内会活動

| | | |
|-----------|----------|-------|
| ・田植え体験 | ・稲刈り体験 | ・餅つき |
| ・越冬キャベツ掘り | ・スノーランタン | ・資源回収 |
| ・元気体操 | ・敬老会 | ・昼食会 |
| ・開拓記念祭 | ・ラジオ体操 | ・夏祭り |
| ・防災研修 | ・忘年会 | ・新年会 |
| ・会館の雪下ろし | ・チャレンジデー | |

3. 名寄市立大学の地区組織活動に関する教育が学生にもたらしたもの

学生は、町内会活動に参加しながら各々の行事の意義について学習をすることができている。例えば、ラジオ体操は、参加者同士で自然に欠席者のことを確認し合い、見守り体制の意味もあることなどを理解することができている。町内会の行事に小学生が参加している時には、学生自身が子どもの頃に行事に参加して

いた時のことを想起し、参加している小学生の気持ちを考えながら自分の経験を活かして関わっている姿を見ることができた。また、町内会活動の餅つきでは、杵と臼を町内会で所有している所や市役所から借りて使用している所があり、餅つきを単位町内会の会員で行う所や名寄市のもちつき大使を招いて行っている所があり、学生は名寄市の特産のもち米がどのように地域の中で使用されているのかや全国でどのように使用されているのかを知ることができ、同じ町内会行事でも町内会によってどのような特徴があるのか自分の行った町内会以外のことも知り、広い視野を養うことにつながる。

町内会行事の参加者には、単位町内会の住民の方々だけでなく、地域内にある学校・事業所・施設などの職員の方々も参加しており、学生は地域の方々と職員の方々がお話をしている場面を見て、暮らしと仕事が融和することにつながっていることを考えることができている。

学生は、普段の大学生活では学生同士の関わりが多い中、町内会活動に参加することで、様々な年代・職業の方々に関わる経験ができ、大きな意義がある。会員の方々同士が交流している様子や役割を分担しながら1つの行事に取り組んでいたり、お互いにねぎらいの言葉をかけ合っている姿を見て、地域の方々がどのように協力し合っているのかを学んでいる様子があった。また、学生は単位町内会の懇談会や活動に参加する中で、町内会活動で使用する会館の周りの花壇を整備したり、屋根の雪下ろしをしていることを知り、普段から地域の方々協力して会館をいつでも使用しやすいように工夫していることを考えることができていた。また、町内会行事で使用する物は、できるだけ地域の業者のものを使用するなど、地域の活性化にもなるように、町内会の方々考えている姿を見て、みんなで地域を大切にしていることを感じられていた。

学生は、地域の歴史や名寄市立大学の歴史について、図書館の本など手にすることはあるが、町内会の方々とのコミュニケーションを通して、住民の方々は、学生よりも地域に長く住んでおり、地域の歴史や名寄市立大学の歴史や行事にも詳しく、学生自身が学習していたこと以外にも教えてもらうことで、本で読んでいた内容と話を聞いたことを結び付け歴史を実感すると同時に、住民の方々が地域を大切に思いながら生活していることなど幅広い学びを得ることにつながった。また、大学祭などの住民の方々が参加できる大学の行事を楽しみにしていることを知り、地域の人々にとっての大学の存在感を知ることができた。

看護学科の学生は、疾患を持つ方の看護について学習することが多いが、保健師教育において、町内会行事に参加することで、健康な人々の生活の様子や疾患の予防への考え方について理解する機会となっている。また、挨拶や表情などにも配慮する必要性を改めて学ぶことができていた。

保健師教育では、4年生になると7週間にわたる保健所および市町村での保健師に関する実習がある。この実習は、雪のない期間に実施するが、地区組織活動の授業で前年度に1年を通じて同じ地区の住民と関わることで、雪が降っている時には、実習している地域はどうなっているのか考え、季節による生活の工夫を想起することができ、健康課題をとらえることにつながっていると考える。

また、4月には新4年生が新3年生へ保健師課程の科目に関する学生同士の情報交換を行っている。その際に、4年生が学習方法のほか、前年度の学習で印象に残った内容を伝えている。この時に町内会活動から学んだことをいきいきと話す4年生の姿を見て、3年生は町内会活動に参加することに期待を膨らませている。

本稿の一部を第69回北海道公衆衛生学会にて発表した。その際、現場の保健師の方から、名寄市立大学の学生は、授業の中で地域に向いて活動ができて幸せであり、将来保健師として活躍する時には地区組織活動がよりスムーズにできるのではないかとの意見があった。

4. おわりに

地域の町内会の協力を得た町内会活動により、学生は、地域の特徴や人々の生活を学ぶことができていると考えられる。また、この学習は、名寄市立大学だからできる内容であることを本稿の執筆により改めて確

認することができた。

謝辞

名寄市町内会連合会の会長、各単位町内会の会長・役員・会員の方々、名寄市民の方々、名寄市役所担当者があたたかく迎え入れてくれることが、学生の教育につながっており、ご理解とご協力に心から深く感謝いたします。

引用文献

- 1) 標美奈子 (2016) 1 章公衆衛生看護の理念 A 公衆衛生看護の理念：標準保健師講座 1 公衆衛生看護学概論 (標美奈子著者代表)、p. 3、医学書院。
- 2) 松本珠実 (2017) : 2 章保健医療福祉行政・財政の理念としくみ B 行政における保健師の役割と活動：標準保健師講座別巻 1 保健医療福祉行政論 (藤内修二著者代表)、p. 64、医学書院。
- 3) 標美奈子 (2016) : 6 章公衆衛生看護活動の計画・実践・評価 A 公衆衛生看護活動の展開における地域診断：標準保健師講座 1 公衆衛生看護学概論 (標美奈子著者代表)、p. 114、医学書院。

参考文献

- ・播本雅津子 (2016) : 日本最北公立保健師教育養成施設における卒前・卒後教育の現状と課題、特集 行政保健師の質の保証 - 卒後教育・CPD、公衆衛生、80 (12)、903-908.